

編集後記

おかげさまで、信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター紀要『教育実践研究』第22号を刊行できました。関わったすべてのみなさまに感謝申し上げます。

本号では「テクノロジーによる学びの支援」を特集テーマとして、論文1本、実践報告1本、資料2本を掲載しました。また、「その他教育実践に関わる研究」として、論文3本、実践報告9本を掲載しました。以上の合計16本の論文等は、信州大学教育学部の知のアーカイブとして後世に残すこととなります。

GIGAスクール構想と新型コロナウイルス感染症の対応で学校の1人1台パソコンが実現され、「授業」の概念が変化し、「学習観」の刷新に迫られています。また、業務改善が人手不足の中で進みつつあります。本号では「テクノロジーによる学びの支援」をテーマに設定しましたが、テクノロジーの理解やテクノロジーを活用した実践が今後一層求められることは確実です。その中で学術的な議論をすることは大学の使命であり、紀要の発行を通して社会に貢献し続けたいと思います。

さて、本号より編集委員会の業務効率化も徐々に行うこととしました。具体的に本年度は、校閲作業や確認作業の電子化、対面会議の削減を行いました。現段階では紙ベースの作業が残っていますが、近いうちにすべての業務を電子化する予定です。また、編集委員長等は持ち回り業務としていましたが、持ち回りは引き継ぎの手間や不慣れな作業が負担になります。そこで、編集委員長を本センター長に、副編集委員長をセンター専任教員に固定化しました。これらの試みは柔軟に変更していきますが、適正な業務負担で紀要発行の持続可能性を確保していきたいと思います。

最後に、表紙のデザインは橋本光明名誉教授に、英文タイトルおよび要旨校閲は高橋ユウエン先生に、編集作業は事務補佐員の夏目尚子さん、荒井美帆さんに献身的なご協力をいただきました。この場をお借りしまして、編集委員会より心から感謝と御礼を申し上げます。

(第22号編集委員長 島田英昭)